

こどもエコクラブの活動

一名古屋市のエコシティへの取り組みの調査
及び提案等について一
名古屋市長庄内小学校 牧 宏

1 はじめに

中学生8名、サポーター3名で行っているエコクラブであるが、名古屋市が行ったエコアジアこども交流プログラムに参加したメンバーの有志が継続して活動している。名古屋市はごみ減量に取り組み、エコシティを目指して努力している。そこで、本クラブも、中学生の目で見たとごみ現象問題を次のような視点から考えた。

- ・コンビニエンスストア探検による、ごみ減量問題へのアプローチをはかる。
- ・資源ごみ回収のための施設見学及び体験活動の参加。
- ・ごみ減量に関する資料収集とごみ減量に対する中学生の提案。

また、ごみ減量問題以外にも、沖縄エコスタディプログラムを自主企画して、実施した。

2 活動内容

(1) コンビニエンスストア探検

中学生及び若い人達がよく利用するコンビニを調べることにより、環境問題を考えた。そこで、名古屋市内にあるS・F・Y・R・Mの代表的な5社を取り上げ、①商品の種類や販売状況、②環境対策、③ごみ収集状況について見学・聞き取り調査を行った。

その結果、ペットボトルは1日に大きなごみ袋数杯分収集され、特に多い。また、賞味期限切れの弁当やおにぎり等の食品は業者回収され、廃棄されている。更に、容器等で環境に配慮した商品を開発したり、売れ残りを減らすために商品管理を行っている等、コンビニから環境問題が見えてきた。そこで、特に、多く収集されたペットボトルが、その後どのような経過を経て、リサイクルされていくかを追ってみることに興味を持った。

(2) 市西資源センター見学及び体験活動

名古屋市の北西部から収集されたペットボトルは、西資源センターに集められる。そこで、どのように処理されているのかを見学及び、作業をボランティアとして体験した。この見学・体験活動を通して、ペットボトル以外の物(例えば、弁当類、缶類等)を入れずに分別する必要性、また、キャップは必ずや飲み残しをなくし、作業の手間を省く必要性等、市民の分別活動への協力の必要性を感じた。更に、量が多いので作業の大変さや飲み残し飲料の夏場のにおいの大変さを感じた。

(3) 市のごみ減量に対する提案について

コンビニ探検及び西資源センター見学及び体験活動を通して、ごみ減量への協力の必要性を感じながらも、市の行っている減量対策の問題点を考えた。

- ①プラスチック容器及び紙製容器収集は各週から毎週収集にする。
- ②ごみ減量の3Rのうちリデュース(減らす)を重視し、グリーン購入の意識及び行動化を育てる。
- ③多くの売れ残り食品を廃棄するのではなく、生ごみリサイクルし、有効利用する。

(4) 沖縄エコスタディプログラムの実施

本クラブ員はエコアジアこども交流プログラムに参加した時、タイでマングローブの植林を経験し、マングローブへの関心も強い。

そこで、日本国内でもマングローブ林が多く残る沖縄での調査及び植林活動を行っている学校との交流を行う計画を実施した。

- ①大浦川流域及び慶佐次のマングローブ林調査→シーカヤックでマングローブ林を観察し、保護の様子や周辺の様子を調査した。
- ②辺野古周辺の海のサンゴ礁調査(ジュゴン生地と見られる)→サンゴ礁の海をシュノーケリングしながら海中観察及び魚類調査。また、ジュゴンの藻場の見学・説明を聞いた。
- ③名護市立屋我地中学校のマングローブ植林活動地見学及び交流会→植林地ではマングローブの種類の説明を聞いたり、干潟に住む生き物を観

察したり、互いの活動を発表し合ったりした。更に、沖縄の伝統的な料理等を地元の方の指導により、作った。

3 おわりに

エコクラブの活動から、名古屋市のエコシティ

調査はコンビニ探検からペットボトルの収集・処理過程の事例を通して、生活とリサイクルの結び付きが見えてきた。今後は、更にごみ減量活動の調査及びグリーン購入活動に取り組みたい。また、他のエコ活動として地域に根ざした探検活動やまちづくりの活動にと幅を広げていきたい。